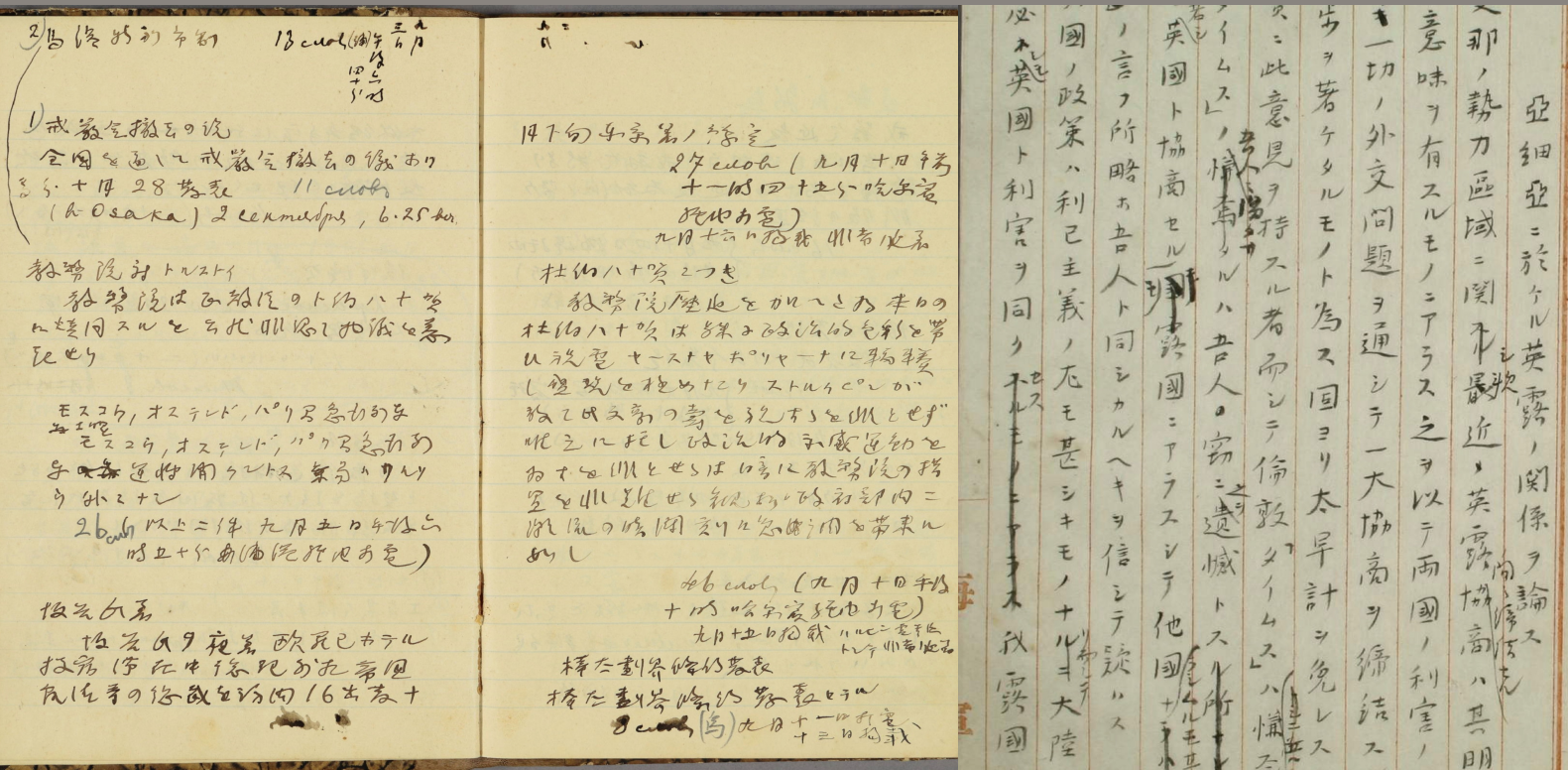


二葉亭四迷再考 — 人物、文体、可能性

Пересмотр Фтабатэя Симэя: личность, стиль, возможности



二葉亭四迷 (1864-1909) は多様な顔を持っていた。ツルゲーネフの「あひびき」などロシア文学の日本初の本格的な翻訳者、その訳業を通じて言文一致体を編み出した先駆者、『浮雲』などで「個」の問題を前景化した近代日本文学最初期の作家、日本とロシアの地政学的葛藤を予見し、憂慮した国士—等々。

それらはいずれも、日本に近代という機構が成立する過程で現れていた諸々の課題を、二葉亭がわが身に真摯に引き受ける中から生じてきたものである。しきりに「近代の終わり」が語られている今こそ、私たちは立ち止まって、この多面的な人物の魅力と現代における意味をもう一度振り返ってみる必要があるのではないかと。

これまでロシア文学・比較文学・日本文学の立場からこの作家に言及を重ねてきた方々とともに、二葉亭という人物あるいは現象について考えてみたい。

- 司会：
- ▶ 源 貴志 (早稲田大学)
- 登壇者 (登壇予定順)：
- ▶ 安井亮平 (早稲田大学名誉教授)
 - ▶ 舩内裕子 (早稲田大学)
 - ▶ 安藤 宏 (東京大学)
 - ▶ ヨコタ村上孝之 (大阪大学)

日時：10月13日 (金)
17時30分開場、18時開演
会場：上智大学
中央図書館・総合研究棟 (L号館)
9階 L-921

- *入場無料、予約不要、どなたでもご来場いただけます。
- *当日はこのフライヤーをご持参ください。お持ちでない場合、図書館入館時に入口での記帳のお手続きが必要になります。

主催：日本ロシア文学会
協力：科研費基盤 (B) 「近代ロシア文化の“自叙”の研究」 (課題番号26284044)
岩波書店、新潮社、水声社、成文社、中央公論新社、ミネルヴァ書房 (五十音順)

お問い合わせ先：naoto-yagi@waseda.jp (八木) ; nakamura.tadashi.6r@kyoto-u.ac.jp (中村)